

国際福祉機器展に行ってきました!



9月27日(水)、ビックサイトで開催された『第50回国際福祉機器展&フォーラム東京』に約20年ぶりに行ってきました。広い会場には1日で見切れないほど様々な展示紹介がされています。人が集まるブースに足を運ぶと、炭酸飲料用のロミの粉を使ったサイダーを、試飲していました。むせやすい方でもこの粉を使えば、コーラやビールなども安全に飲むことができます。次に目に留まったのは、気管切開した方などに使用が期待できるマイクです。声が出なくてもマイクを喉に当てロパクで喋ると、音声に変換されて発声されます。利用者の方が快適に暮らせる知恵やヒントがたくさんあり、とても貴重な体験でした。

別会場のフォーラムでは暮らしネットえん小島代表より「安心して認知症になれる社会に向けて」の講義がありました。最近では独居の認知症の方も増えて対応に苦慮しています。また、今年アルツハイマー型認知症初の治療薬レカネマブが承認されました。対象は軽度認知障害、初期の認知症の方で、進行を約3年遅らせられるそうです。それでも高い薬代や副作用の問題など課題はたくさんあります。この薬の開発でアルツハイマー病の解明は一合目とのこと。最後に「介護保険では認知症対応を疎かにしてきた、23年たっても相変わらず身体介護モデルのまま、予防重視だが、原因が解明されていない認知症は予防できない、認知症の方は自分が思っていることを上手く伝えられない方がほとんどなので、私たち介護職が何に困っているのか、発信して行きましょう」と締めくくりました。

話はそれますが、この原稿を書いているちょうど今、ラグビーのワールドカップが開催されています。以前新聞の記事で読んだのですが、日本で天然芝の普及活動をしている英国の方が、「日本人は体型の不利を口にするけれど、日本人と英国人のラグビー選手の平均身長はほとんど変わらず、何が違うかというと、英国人は子供の頃から芝の環境で育っている」、芝だと転んでも痛くないので、思いっきりプレーすることができます。芝の普及が進めば、日本のラグビーはこれからも強くなっていくことでしょう。安心して転べる芝の普及のように、「安心して認知症になれる社会に向けて」、これからも認知症に対する理解を広げ、地域の人たちと一緒に取り組んで行きたいと思います。

(グループホームえん・ケアサポートえん／立川栄侍)